



海辺・川辺調査レポート

■ 名 前 (ふりがな)	森野 諄紀
■ グループ名	
■ 学校名	朝霞市立朝霞第三中学校
■ 学 年	1 学年
■ 年 齢	13 才
■ お手伝いしていただいた方の名前	

■ レポートした場所	埼玉県朝霞市を流れる黒目川
■ レポートの題名	黒目川に行く
■ 内 容	<p>この写真群は僕の学校近くの黒目川だ。</p> <p>写真 A は昭和 40 年頃で新高橋から泉水方向を撮ったものだ。昔は田畑が広がっていたが今は宅地化されている。そのせいで川から田畑の自然のつながりが失われてしまった。</p> <p>B は昭和 47 年泉橋から上流方向をみたものだ。川原のせり出している部分が完全になくなり川が真っすぐになっている。護岸工事されたコンクリート部分がむき出しになっている。</p> <p>C は東林橋から下流方向を見ている。川の蛇行はゆるやかになっている。僕は市役所へ黒目川についての資料をもらいに行った。昭和 50 年代前半までは下水道の整備が進んでいなく、生活排水がそのまま川に流れこんでいた。BOD (生物化学的酸素要求量) が 30 ~ 80 台と非常に高かったが近年は、3 以下になり下水道が完備されたり工場に対する排水規制の成果といえる。夏休み黒目川フェスティバルに出かけた。実際に川の中に入り魚を捕獲した。僕はオオイカワ、モツゴ、ウキゴリを捕えた。他の人はアユ、ウグイ、ボラ、マハゼ、モズクガニなどを捕えていた。この魚達は水質階級Ⅱに住むもので、このことから黒目川は少し汚いことが分かる。朝霞水門からとなりの新座市の境まで朝霞の黒目川の回りでは都市化が進んでいるがその周辺には畑、斜面林があり湧き水が湧き出ているところがある。また川の中には水深の深い所や浅い所流れの速い所、暖かい所があり生物が暮らしやすい環境になっている。歩いている間にマガモのつがいと一緒に美しく泳いでいく所やカルガモの母子の群れで、母を先頭に生まれたての 6 匹の子がつつき岸に上が</p>

ったり川に入ったりほほえましい様子を見た。さらにシラサギが目にもとまらない速さで水中の小魚を捕まえついでむ所やユリカモメが中洲あたりから飛び立ち悠然とした姿を見せてくれた。黒目川の岸には草が緑のじゅうたんのよう生えていて自然であふれている。数種類のスゲ、ヨシ、ススキ、アザミ、セイタカアワダチソウ、シロツメクサ、タンポポ、など多くの草がある。川原には形はヤツデで色が薄い葉を持つ中低木が数本生えていて脇道には1kmほど桜並木が続いている。つい最近まで黒目川は治水第一で護岸工事の時コンクリートで固めるだけのものだったが、岡橋から新高橋まで2kmほどは堤防を自然な形で高くし草がうまく生えるように、工夫されている。魚や虫は、種類によって異なる環境が必要になる。つまり多種多様な生物が棲息するためには、色々なタイプの自然環境がいる。蛇行した川、卵を生むための岸は生物のゆりかごだ。川辺が自然豊かなものになれば天然のビオトープが作られる。黒目川の下流にレッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類に分類されるトダスゲという植物があることが分かった。水門建設のため移植して保護されていたが元の場所に戻されたそうだ。人々と自然が共存するためには生態系を守ることが大切だと思う。

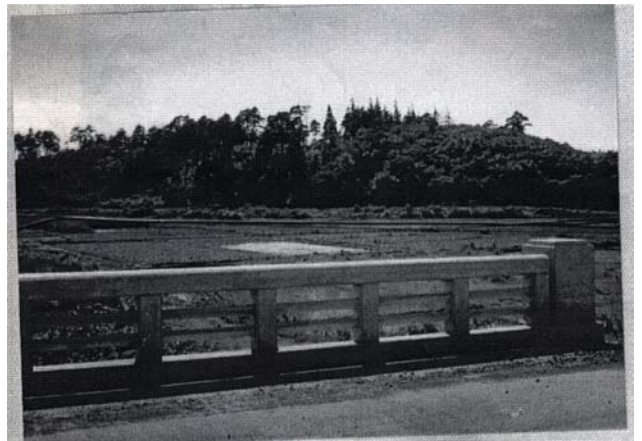
■ 写 真

A'



昭和40年ごろ 新高橋から泉水方向

A''



新高橋から泉水方向

A'



A'



A''



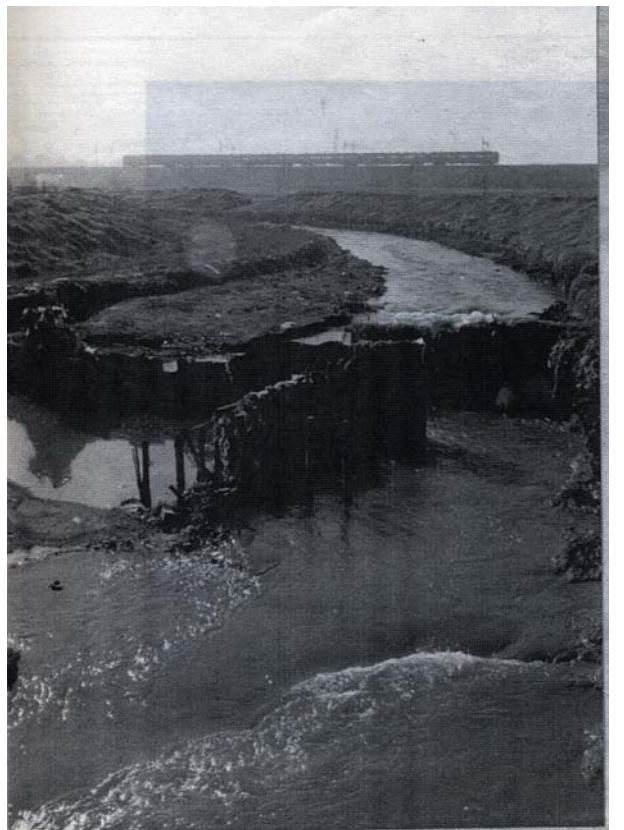
A''



B



C



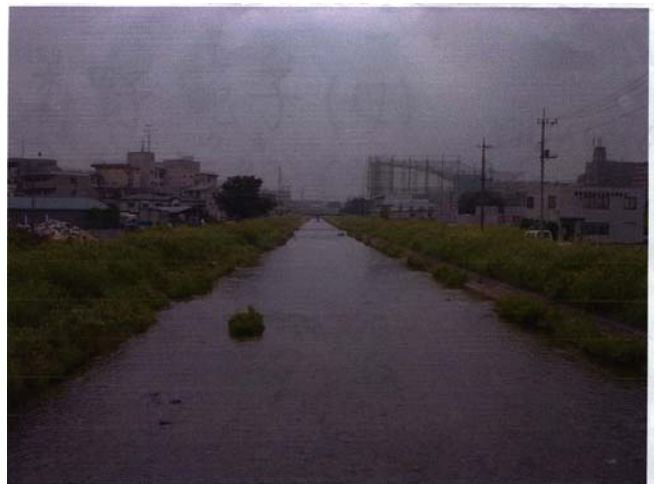
昭和 47 年 泉橋から上流方向 (小)

B



東林橋あたりから下流方向

B



C

